

大阪梅田教会報

すぐやるか！

赤波江 謙一神父

マタイ福音書に記されているペトロ、アンドレア、ヨハネ、ヤコブ、マタイ等に対するイエス様の呼びかけの記事を読んでいて感じたことがあります。

イエス様はこの人たちに対して、「わたしに従いなさい」と言われたけど、「わたしが呼びかければ絶対に従うはずだ」という確信をもっておられたのかなあ。もしかしたら、半信半疑で、「従って来てくれるやろか？」という思いで呼びかけられたのかなあ。もし半信半疑やったとしたら、「二人はすぐに網を捨てて従った」(マタイ4・20)「この二人もすぐに、船と父親とを残してイエスに従った」(同22)「彼は立ち上がってイエスに従った」(同9・9)という彼らの、すぐに、立ち上がって、という行動に、「そうか、来てくれるか！」と内心ホッとされたやろなあ。やとしたら、イエス様、めっちゃ嬉しかったのとちゃうやろか。

こんなことを考えたのは、聖書解釈という次元からではなく、私自身の体験から、人は他人からの呼びかけに対して必ずしも「すぐに」「立ち上がって」応えてくれるとは限らないということをもっと痛感していたからです。でも私自身の体験などどうでもいいことで、イエス様の弟子となった人たちの、「すぐに、立ち上がって」起こした行動は、イエス様に従いたいと願う人への大切なメッセージでもあります。

少し前に、ある役所の中に「すぐやる課」という部署ができたというのが話題になったことがありました。市民からの要望に対しては、「すぐやらなければならないもので、すぐやり得るものは、すぐにやります」をモットーにしているようですが、役所の中だけでなく、いろんなところにこの精神が使えたらいいなあと思います。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(マタイ16・24)とイエス様は言われます。イエス様は私たち一人ひとりに、さまざまな人や機会を使って、「わたしに従いなさい」と呼びかけておられます。それに気付くことができたなら、そして、自分のことは後回しにして(自分を捨てて)、すぐに、立ち上がって、イエス様の呼びかけに応える(十字架を背負う)ことができたなら、「そうか、ついて来てくれるか！」とイエス様を本当にお喜ばせすることになります。

5月12日は「世界召命祈願の日」です。イエス様は、ご自分に従いたいと望む人に、職業、家庭生活、修道生活、司祭職生活、さまざまな人間関係などをおして、常に呼びかけておられます。

特に、社会の少子化に伴う召命の減少や司祭・修道者の高齢化が顕著になっている昨今、この世界への主からの呼びかけに気付く聖霊の恵みが必要とされています。多くの若者がこの呼びかけに敏感に気付き、すぐに立ち上がって、喜んで主のぶどう畑に働きに出掛ける熱意を与えられるように聖霊の導きを求めて祈りましょう。

教会の中にもあっちこっちに欲しいなあ。

「すぐやるか！」

(梅田ブロック協力司祭：聖パウロ修道会)

